

2026年（令和8年）5月8日（金曜日）



日銀の業務や秋田の経済を取り巻く環境に理解を深めた講演(能代市中央公民館で)

日銀業務と県経済解説

市民おもしろ塾 種村秋田支店長が講演

日本銀行秋田支店の種村知樹支店長による講演「日本銀行の業務と秋田の経済」はこのほど、能代市中央公民館で開かれた。日銀の政策や業務と地域経済との関わり、本県経済の特徴や課題を解説した。市民おもしろ塾が主催し25人が聴講した。

種村さんは、昭和48年鹿児島県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修士課程

を修了後、平成10年に日銀に入行。金融機構局企画役や財務省への出向、ロンドン事務所勤務、金融機構局参事役などを経て昨年6月から現職。

講演は2部構成。第1部の「日銀の業務」では、日銀は西南戦争での紙幣増発によるインフレーションを受けて、発行や価値が揺れ動かないように、信用秩序の維持を図るといった目的で

設立されたと紹介。中央銀行として、金融機関の経営実態の把握も行っているとした。

また、災害時も営業を止めず、損傷した現金を引き換える「日銀の公共性」、賃金と物価が見合うようにゆつくり上昇する「日銀の理想」を説明したほか、日銀の判断を透明化させるため

に金融政策決定会合や展望レポートを定期的に実施・公表しているとした。

第2部の「秋田県の経済

動向と課題」では、米国のトランプ政権による政治・経済面での不確実性や本県の経済課題を説明した。